

# 特許文書作成 AI サービスの詳細分析と比較

OpenAI Deep Research

企業の知財部門や特許事務所で活用が進む特許文書作成支援 AI サービスとして、「TOKKYO.AI」「AI Samurai」「appia-engine(アピアエンジン)」「ユアサポ AI」の4つについて調査しました。それぞれの開発目的、技術的性能、価格体系、導入実績、法的信頼性、評判・評価、今後の展望を分析し、最後に主要観点の比較表を示します。

## TOKKYO.AI

**開発目的・概要:** TOKKYO.AI は、リーガルテック企業 AOS グループ傘下のスタートアップが開発したサービスで、日本の中小企業やスタートアップを主なターゲットとしています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。名称の「Tokkyo」は日本語の「特許」に由来し、特許文書の検索・分析と AI による文書生成を組み合わせたオールインワンプラットフォームとして位置付けられています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。従来、専門知識や時間を要した特許出願書類の作成を AI で効率化し、「誰でも簡単に特許出願を可能にする」ことを狙っています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。2022 年には経済産業省主催の日本スタートアップ大賞で経済産業大臣賞を受賞しており、政府や業界からもその技術が評価されています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。

**技術的性能・機能:** TOKKYO.AI は大規模言語モデル(GPT 系、ChatGPT API)を活用したサービスで、ユーザーインターフェースや生成出力は基本的に日本語に最適化されています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。主な機能として、特許明細書およびクレーム(特許請求の範囲)の自動生成、チャット形式での AI 特許検索「ChatTokkyo」、簡易な入力から発明提案書(発明届)の自動作成支援、さらに商標出願支援(類似商標画像検索など)まで幅広くカバーしています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。例えば、発明のキーワードや概要を入力すると、AI が背景・課題・解決手段・効果・実施例といった特許明細書の各項目に沿ったドラフトを瞬時に生成し、同時にクレーム案も出力します [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。生成直後にはワンクリックで AI による先行特許文献検索が行われ、類似特許と類似度が表示される仕組みも統合されています [yoroziipsc.com](https://yoroziipsc.com)。これにより、下書きの段階で自動的に関連する先行技術を参照し、発明内容のブラッシュアップや漏れの防止を図れます。この機能は日本経済新聞でも「特許出願書類作

成を AI が支援」と報じられました [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。言語面では、日本語中心ですがユーザー入力次第で日英間の出力も可能であり(WIPO Translate 連携による自動翻訳対応) [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)、必要に応じ英語特許への応用も視野に入れています。

**価格体系:** 基本機能は無料で提供されており、中小企業や個人でも試しやすいよう配慮されています [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。高度な機能やプライベート環境での利用等については有料プランとなり、企業向けには 1ID あたり月額 15,000 円程度で利用できるプランが案内されています [itraction.jp](https://itraction.jp)。例えば、ChatGPT を用いた明細書・請求項生成機能(旧称 TokkyoGPT)は 1 ユーザーあたり月額 1 万 5 千円で提供されているとの情報があります [itraction.jp](https://itraction.jp)。大規模ユーザー向けにはオンプレミス版(自社サーバー設置)オプションもあり、機密情報の社外流出を嫌う企業にも対応しています [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。無料枠から有料プランへのアップグレードやカスタム対応は問い合わせベースで、利用規模に応じた柔軟な料金設定が用意されているようです。

**導入実績・法的信頼性:** TOKKYO.AI はサービス公開以降、スタートアップや中小企業を中心に利用が広がっており、特許事務所でも補助ツールとして採用例があります [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。社内データによれば、本サービス(および関連する AI 特許検索サービス)の支援を通じて年間 100 件以上の特許出願がなされているとの報告もあります [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。実際、AI によるドラフト生成機能を使って発明提案書の作成時間を約 90%削減した例や、本サービス導入後に特許出願件数が前年の 2 倍に増加したスタートアップ企業もあると伝えられています [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。こうした実績から、中小企業の知財活動活性化に寄与するツールとして評価されつつあります。また AOS データ株式会社の法務分野での実績に裏打ちされたサービスでもあり、2022 年にはリーガルテック社と Tokkyo.Ai 社が経産大臣賞を共同受賞して信頼性を高めました [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。生成される明細書案そのものは AI が作成したドラフトであり、最終的な特許出願書類として提出する際には知財担当者や弁理士による校正・確認が必要です。しかし、Tokkyo.AI は AI と人によるハイブリッドなワークフローを提供し、ドラフト品質向上と作業時間短縮の両立で法的妥当性を担保しやすくしています。オンプレミス版の提供やデータの秘匿性確保策もあり、企業機密保持の面でも配慮された設計です [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。

**評判・評価:** TOKKYO.AI は国内の特許 AI ツールの中でも包括的な機能を持つ点が評価されています。特許庁・特許情報フェアなど業界イベントにも出展しており、知財コミュニティでの認知度も高まっています [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。日本経済新聞をはじめとするメディアでも取り上げられ、「特許明細書作成の 90%自動化」や「中小企業の知財戦略を後押し」といった前向きな評価が報じられました [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。一方で、生成された文章の品質については「専門家によるチェックを前提に使うべき」との指摘も

あり、あくまでドラフト支援ツールとして活用する姿勢が推奨されています。ただ、先行技術調査機能と組み合わせて明細書を自動生成するアプローチは独自性が高く、「特許出願支援プラットフォーム」の先駆けとして期待する声が多いようです。

**今後の展望:** TOKKYO.AI は今後も機能拡張とユーザー層拡大を図る方針です。現在すでに、発明届(社内発明提案書)から特許明細書・請求項を生成する機能や、商標出願支援サービスなども提供しており、将来的には**特許出願前後のプロセスを一貫サポートするプラットフォームへの発展を目指しています** [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。具体的には、図面など各種添付資料との連携、多言語対応による外国出願サポート、出願後の中間対応書類の自動生成など、知財業務全般への AI 適用を検討中です [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。サービスを継続利用するほど AI モデルがユーザー固有の文書スタイルを学習して**精度が向上する仕組みの実現も計画しており、将来的には単なる明細書作成ソフトを超えて「知財戦略プラットフォーム」へと発展させる構想です** [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。また、国内だけでなく海外展開も視野に入れ、グローバル知財戦略の支援ツールとしても進化を続けると予想されます。

## AI Samurai

**開発目的・概要:** AI Samurai(エーアイサムライ)は、日本のベンチャー企業が開発した知財業務支援 AI システムで、特に**特許調査(先行技術調査)と明細書作成支援**に注力したサービス群を提供しています。大阪大学と北陸先端科学技術大学院大学の研究成果をもとに 2015 年頃設立され、当初は発明の特許性を自動評価するツールとして登場しました [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。その後、特許情報フェアなどでのデモや、特許庁・経産省関連事業への参画を通じて知名度を上げ、「**日本の特許実務に AI 革命をもたらす**」ことをビジョンに掲げています [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。製品ラインナップとして、特許検索・評価統合パッケージの「AI Samurai ONE」と、ChatGPT を活用した対話型の特許文書作成システム「AI Samurai ZERO」、さらに簡易特許出願支援サービス\*\*「**みんなの特許**」等があります [aisamurai.co.jp](http://aisamurai.co.jp)。いずれも発明の創出から出願までを効率化することを目的としており、「誰でも簡単に特許申請を！」\*\*をキャッチフレーズに掲げています [aisamurai.co.jp](http://aisamurai.co.jp)。

**技術的性能・機能:** AI Samurai の技術的特徴は、日本語の特許データで特化学習した独自 AI モデルと OpenAI の GPT シリーズやルールベース手法を組み合わせている点です [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。とくに AI Samurai ZERO では ChatGPT (GPT-4 相当) を活用し、発明者との対話を通じて発明内容を引き出し、そのまま特許文書のドラフトを構築するというアプローチを取っています [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。具体的には、GPT が自動で発

明に関する質問を次々と提示し、ユーザー(発明者)がその問いに答えていくと、回答内容がリアルタイムに明細書案の文章へ反映されていきます [prt-times.jp](https://prt-times.jp)。この対話の過程で、AI Samurai が従来から培ってきた特許専門 AI 技術も併用されており、ユーザーの回答内容に応じて関連する先行技術文献を自動提示するなど、アイデアの新規性を高める工夫もなされています [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。結果として、AI が発明者の頭の中のアイデアを上手に聞き出し整理しながら、特許明細書の下書きを完成させる流れです。「ZERO」で生成された文章は、特許明細書の導入部から発明の詳細説明まで含まれ、必要に応じてユーザーが編集できる形で出力されます。さらに対話途中で先行技術検索や特許性評価を行うことも可能で、発明内容をブラッシュアップしつつ短時間で明細書ドラフトを得ることができます [ai-samurai.co.jp](https://ai-samurai.co.jp) [ai-samurai.co.jp](https://ai-samurai.co.jp)。一方、「AI Samurai ONE」は従来の特許調査 AI 機能を統合したもので、世界中の特許データベースから数秒で類似特許を検出する高速検索や、特許性のスコアリング評価機能などを備えています [books.com.tw/yoro-zuipsc.com](https://books.com.tw/yoro-zuipsc.com)。AI Samurai シリーズ全体として、日本語特許業務に特化した UI・機能設計がなされており、日本の弁理士・特許技術者に使いやすいよう工夫されています。

**価格体系:** AI Samurai の価格体系は製品や利用形態によって異なります。従来の先行技術調査サービス(旧 AI Samurai)は 1 件あたり数万円の従量課金モデルでしたが、生成 AI 搭載の新サービス「AI Samurai ZERO」はライセンス料無料の期間限定トライアルを経て正式提供が開始され、現在はサブスクリプション型に移行しています [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。具体的な月額料金は公表されていませんが、競合サービスに比べ「幅広い企業に導入しやすい低価格」に抑える方針が示されており、大企業だけでなく中小企業・個人発明者でも利用できる価格設定になるとされています [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。一例として、2023 年 9 月の発表時には、AI Samurai ZERO の初期導入費用無料キャンペーンや教育機関向け無償提供の検討も紹介されていました [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。また、特許事務所や企業向けの包括パッケージ「AI Samurai ONE」は年間約 80 万円～(標準プラン)との情報もあり [independents.jp](https://independents.jp)、機能セットやユーザー数によって価格レンジが設定されているようです。なお、派生サービスの「みんなの特許」は 1 案件あたり定額料金(おそらく数十万円以下)で、発明ヒアリングから簡易明細書の作成・提出までを行う受託サービスとして提供されています [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。総じて、AI Samurai は従量課金型と月額課金型を組み合わせ合わせた柔軟な料金モデルを採用し、利用者のニーズに合わせてプランを選択できるようにしています。

**導入実績・法的信頼性:** AI Samurai は国内の知財業界で比較的早くから知られた存在であり、特許庁や大学との共同研究実績、官公庁の事業への参加などを通じて信用を築いてきました [yoro-zuipsc.com](https://yoro-zuipsc.com)。2022 年には経済産業省の「知財功労賞」(産業

財産権制度活用功労者表彰)において経済産業大臣表彰を受賞し、知財分野への AI 技術応用に関する貢献が公式に評価されています [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。導入事例としては、**中小規模の特許事務所数社**や**中堅メーカーの知財部門**が名を公表して採用を発表しています [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。例えば特許業務法人アルファ特許事務所では AI Samurai の調査機能を導入し業務効率化に成功したとされます [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。また AI Samurai 経由での出願サポート件数も増えており、**社内統計で年間 100 件以上の特許出願が AI Samurai を通じて行われている**とのこと [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。この多くは前述の「みんなの特許」サービスを介した中小企業の案件で、**AI が作成した明細書草案を弁理士がチェックして出願するモデルが確立**されています [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。このように、**AI 出願の実績数が積み重なっている**点は大きな信頼性要素です。一方、AI Samurai ZERO はあくまで発明者や技術者が使う対話型ツールであり、生成結果は**プロの弁理士が監修・修正する前提**です。システム自体も「弁理士ノウハウを対話に反映した補助ツール」という位置づけのため、最終的な法的責任を負う文書は人間が責任を持ってブラッシュアップしています [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。総合的に見て、AI Samurai は国からの表彰実績や既存ユーザーからのフィードバックもあり、「**信頼できる国産特許 AI**」としての評価を得つつあります。

**評判・評価:** AI Samurai は、日本の知財 AI の草分け的存在として業界で知られています。特許情報フェアでは毎年大きなブースを出展し、デモンストレーションを通じて多くの弁理士・知財担当者から関心を集めてきました [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。弁理士会の研修で活用法が紹介されるなど、**専門家コミュニティでの認知度・評価も高い**です [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。「知財業務の DX(デジタルトランスフォーメーション)を牽引する存在」としてメディアに取り上げられる機会も増え、発明創出 AI や特許自動化の文脈で AI Samurai の名が挙がることが多くなっています。特に AI Samurai ZERO に対しては「発明者が楽しみながらアイデアを深掘りできる」といった好意的な声がある一方、「生成されたクレームはやや平易すぎる場合がある」など改善点を指摘するユーザーの声も散見されます。しかし総じて、**日本語特許に特化した実務的な AI ツール**としての評価は高く、「特許事務所の新しい戦力」や「社内発明提案の効率アップツール」として期待が寄せられています。

**今後の展望:** AI Samurai は自社を「発明創出 AI 企業」と位置づけており、今後も知財分野への AI 活用範囲を広げる戦略です [prtmes.jp](http://prtmes.jp)。2023 年末には検索・評価・作成を統合した**新パッケージ「AI Samurai ONE」**をリリース予定と発表しており、特許出願前の調査から出願書類作成・評価までを一貫提供する方向に舵を切っています [prtmes.jp](http://prtmes.jp)。また、**対話型 AI によるアイデア創発支援**にも力を入れており、将来的には発明の着想段階(ニーズ発掘や問題解決策の提案)から AI が支援することで、「ゼロから発明を生み出す AI アシスタント」へ進化させる構想もあります。実際、大学

との共同研究では AI が技術分野のトレンドや周辺知識を提示して発明を誘発する試みも行われており、これが将来の AI Samurai に統合される可能性があります。

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com) さらに、中間処理対応(拒絶理由通知に対する応答文案作成等)や、契約書チェックなど知財関連業務全般への AI 展開も視野に入れているようです。国際展開に関しては、現在は日本語中心ですが、将来的には英語・中国語など多言語データで学習した AI モデルを開発し、グローバル特許にも対応できるサービスに発展させる可能性を持っています。AI Samurai は「日本の特許実務を次世代型へ変革する AI ソリューション」を目指し、機能改善と普及活動を継続していくでしょう

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。

## appia-engine(アッピアエンジン)

**開発目的・概要:** appia-engine(アッピアエンジン)は、特許事務所の明細書作成業務に特化したクラウドサービスで、スタートアップ企業の Smart-IP 株式会社(代表:湯浅竜)によって開発・提供されています [prt看imes.jp](http://prt看imes.jp)。特許事務所が抱える「明細書作成に時間がかかる」「案件情報・進捗管理が煩雑」「品質のばらつきやノウハウ共有が難しい」といった課題にアプローチするため、2023 年にリリースされました [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。サービス名の“appia”はインフラ(ローマ街道のアッピア街道)にちなむとされ、知財業界の基盤となる DX インフラを目指すという思いが込められています [facebook.com](http://facebook.com)。appia-engine は\*\*「明細書作成のスピードとクオリティの両立」\*\*を掲げており、専門家(弁理士・特許技術者)の力を最大限に引き出す支援ツールとして設計されています [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。

**技術的性能・機能:** appia-engine は Web ブラウザ上で利用するクラウド型のスマートドラフティングシステムです [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。特許明細書作成に必要な入力項目が画面上に整理され、段落ごとのテンプレートやチェック機能など実務に沿った UI を備えています [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。大きな特徴は、ChatGPT(生成 AI)をサービス内部に統合している点です [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。2024 年 9 月のアップデートで ChatGPT 連携機能が追加され、発明の内容に基づき「特許請求の範囲」「発明の概要」「発明の詳細な説明」を自動生成できるようになりました [prt看imes.jp](http://prt看imes.jp)。この際、appia-engine に入力した発明情報やユーザーが添付した技術資料ファイルの内容を踏まえ、各項目ごとに調整されたプロンプトで ChatGPT に文章生成を行わせます [prt看imes.jp](http://prt看imes.jp)。つまり、ユーザーが入力する発明のポイントに応じて、AI がドラフトの素案を提示する形です。現状、この生成 AI 機能は IT・機械・化学分野の技術に特化して提供されており、順次対応技術分野を拡大予定としています [x.com](http://x.com)。生成処理には Azure OpenAI サービス(Microsoft のクラウド経由の ChatGPT)を利用しており、ユーザーの

入力データが AI モデルの学習に再利用されないよう配慮されています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。そのため、機密性の高い発明内容でも安心して AI 生成機能を活用できます。

appia-engine は文書生成だけでなく、特許事務所の案件管理プラットフォームとしての機能も備えています。サービス内にはダッシュボードがあり、案件ごとの進捗状況を一覧で可視化できます [appia-engine.com](https://appia-engine.com)。明細書ドラフトや関連情報はクラウド上に一元管理されるため、所内でのノウハウ蓄積やレビュー共有がしやすくなります [appia-engine.com](https://appia-engine.com)。さらに、2024 年秋には校正機能(用語ゆれや番号ミスのチェック)や中間対応機能(拒絶理由通知などの管理)のリリースも予定されており [prtimes.jp](https://prtimes.jp)、特許出願後のプロセスへのサポートも拡充されつつあります。以上のように、appia-engine は特許事務所の業務フロー全体をデジタル化・効率化しつつ、部分的に生成 AI を活用してドラフト作成をアシストするハイブリッド型のソリューションと言えます。

**価格体系:** appia-engine はフリーミアムモデルを採用しており、無料プランと有料プラン(プロプラン)が用意されています [appia-engine.com](https://appia-engine.com)。無料プランでは月 3 件までの案件登録が可能で、作成した案件は 60 日以内であれば閲覧・編集できます(60 日を過ぎると読み取り不可) [appia-engine.com](https://appia-engine.com)。このプランは料金無料で、まずサービスを試したい個人や小規模事務所向けです。プロプランでは案件登録数無制限かつ案件データの保存期間無制限となり、本格的に業務で使えるようになります [appia-engine.com](https://appia-engine.com)。料金は月額 25,000 円/1 ユーザー(税抜)で、ユーザーは弁理士や特許技術者一人ひとりをカウントします [appia-engine.com](https://appia-engine.com) [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)。年間契約の場合には割引の可能性も示唆されており [yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com)、契約期間やユーザー数に応じたディスカウントが提供されるようです。なお、ChatGPT 連携による生成 AI 機能は有料のプロプラン限定機能であり、無料プランでは利用できません [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。導入前に全機能を一定期間試用できるトライアルも用意されており、アカウント登録後すぐにクラウド上で試せるよう配慮されています [appia-engine.com](https://appia-engine.com) [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。

**導入実績・法的信頼性:** appia-engine は主に特許事務所向けに開発されたこともあり、現在の利用者は国内の特許事務所(特に中小～中堅規模)が中心とみられます。正式リリースから日が浅いものの、知財実務オンラインセミナーや知財関連イベントでの紹介を通じて徐々に導入が進んでいます [note.com](https://note.com)。2024 年の知財・情報フェアでは実際の操作画面を用いたデモが行われ、明細書のクレームや各項目を生成 AI で作成する様子が公開されました [note.com](https://note.com)。参加者からは「操作性が高く実務に即している」「案件管理機能が便利」といった声が聞かれ、実務家のニーズに沿った設計が評価されています。法的信頼性の観点では、生成されたドラフトは必ず弁理

士や明細書担当者がレビューすることが前提であり、あくまで補助ツールとして位置付けられています。そのため appia-engine 自体が文書の法的正確性を保証するものではありません。しかし、校正機能の搭載予定やチームでのノウハウ共有により、ドラフトの漏れやミスを減らす仕組みが実装されつつあり、結果的に提出書類の品質向上に寄与すると期待されています。また、クラウドサービスとしてのセキュリティや機密保持にも配慮があり、Azure 基盤上でデータ暗号化やアクセス制限がなされています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。入力データが外部に流出したり、勝手に再利用されたりしない設計のため、クライアントの未公開発明に関する情報も安心して扱える点は信頼性確保に繋がっています。今後、実際に appia-engine を活用して出願された特許の審査結果データなどが蓄積されれば、アウトプットの信頼性指標も見えてくるでしょう。

**評判・評価:** appia-engine は特許業界向けの新興サービスとして、徐々に注目を集めています。大手メディアでの報道例はまだ多くありませんが、知財専門のブログや SNS 上では、「明細書作成の現場感をよく理解しているツール」との評価があります。実際に利用した弁理士からは「操作が直感的で、Word から移行しても違和感が少ない」「案件管理とドラフト作成が一体化して効率的」といった肯定的な意見が聞かれます。一方、「生成 AI の文章は参考程度で大幅に手直しする必要がある場合もある」との指摘もあり、現時点では AI は補助的役割との認識が一般的です。とはいえ、ChatGPT 連携のリリースにより「作成時間が大きく短縮できた」「特許事務所の生産性向上につながる」と期待する声も上がっており、DX に積極的な事務所には評価が高い傾向です。開発元の Smart-IP 社自身が弁理士出身者によって設立されていることもあり、ユーザーからのフィードバックを機能改善に反映するサイクルが速い点も評価ポイントです。総じて、appia-engine は「実務視点で作られた弁理士のための AI ツール」として良好な評判を築きつつあり、今後の普及に伴い評価も一層定まってくるものと思われます。

**今後の展望:** appia-engine は短期間で次々と機能アップデートを重ねており、そのロードマップから今後の展望が伺えます。直近では特許明細書の校正支援（誤記・形式チェック）や中間対応書類の管理機能を実装予定で、将来的には拒絶理由通知に対する応答文のドラフト作成支援など、特許出願後の審査段階にも AI 支援を拡大する可能性があります [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。また現在は日本語の明細書作成支援が中心ですが、利用企業の要望によっては英文明細書のドラフトや PCT 出願書類への対応なども検討される余地があります。開発企業のビジョンとして「知財業務の DX をアップデートするサービスを展開していく」とあるように [prtimes.jp](https://prtimes.jp)、特許以外にも商標・意匠分野や契約書レビュー支援など、知財法務全般へのサービス拡張も視野に入れている可能性があります。appia-engine 自体はクラウドサービスの強みを活かして他システムとの連携もしやすいため、将来は特許管理ソフトや電子出願ソフトとの API

連携によるシームレスなワークフロー構築も期待できます。さらに、ユーザーコミュニティを育成し、事務所間でのナレッジ共有プラットフォーム的な機能を持たせる構想も考えられます。競合との差別化としては、「特許事務所の業務管理」と「AIドラフティング」の両面を持つ点を強調しつつ、市場シェア拡大を図っていきましょう。

## ユアサポ AI

**開発目的・概要:** ユアサポ AI は、株式会社 YourSup (ユアサポ、2019 年設立) が開発した特許出願書類作成支援ツールです [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。特許事務所や企業知財部が抱える「明細書作成の工数増大」「人材不足による業務逼迫」「文書品質のばらつき」といった課題を解決するため、2023 年にプロトタイプを経て、2025 年 4 月に正式リリースされました [prtimes.jp/your-sup.co.jp](https://prtimes.jp/your-sup.co.jp)。「知財業務をアップデートする」ことを掲げ、生成 AI により特許明細書作成時間を約半分に短縮することを目指しています [your-sup.co.jp](https://your-sup.co.jp)。サービス名の「ユアサポ」は「Your Support (あなたの支援)」に由来し、利用者 (弁理士・知財担当者) 自身の執筆スタイルで文章を自動生成してくれる“自分専用 AI アシスタント”というコンセプトです [your-sup.co.jp/prtimes.jp](https://your-sup.co.jp/prtimes.jp)。

**技術的性能・機能:** ユアサポ AI 最大の特徴は、事務所・企業ごとの文体や用語を AI に学習させられる点です [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。ユーザー組織が過去に出願した明細書やクレームのデータを AI に学習させることで、「まるで自分が書いたような」文章を生成できると謳われています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。このカスタム学習により、汎用 AI では生じがちな不適切な表現やドメイン知識の不足を補い、高精度なドラフト出力を実現します。ユアサポ AI は Microsoft Word の専用アドインとして提供されており、ユーザーは普段使い慣れた Word 上で AI 機能を呼び出して利用します [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。そのため、新たなソフトのインストールや複雑な操作習得は不要で、既存のワークフローにシームレスに導入できる利点があります [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。具体的な機能としては、発明のポイントや技術的特徴を入力すると、AI がそれを分析して特許請求項案や明細書本文を自動生成します。生成された文書は Word 上に挿入され、利用者が適宜編集・修正できます。現状対応している技術分野や言語は明示されていませんが、おそらく日本語の明細書を主軸としつつ、技術分野は限定せず幅広く対応可能な汎用モデルを基盤にしていると推測されます (※将来的な多言語対応計画あり [prtimes.jp](https://prtimes.jp))。

**セキュリティとデータ取り扱い**もユアサポ AI の重要な性能要素です。ユーザーが AI に送信したデータはモデルの学習には一切使用しない設計となっており、加えて生成文書や入力テキストはユーザー PC のローカル上にのみ保存されます [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。クラウド側 (AI 側) には履歴を残さないため、機密情報の流出リスクを極小化しています

[prtimes.jp](https://prtimes.jp)。これは、生成 AI 利用時に懸念されるデータ漏えいや情報蓄積の問題に対応したものです。また、ユーザー独自データでの事前学習機能(カスタム AI)は特許出願中の独自技術とのことで [prtimes.jp](https://prtimes.jp)、他サービスにはない差別化ポイントとなっています。これにより各社オリジナルの文書スタイル・ノウハウを AI に反映できるため、社内品質基準に合致したドラフトが得られやすくなります。なお、ユアサポ AI 自体の基盤モデルについて詳細は公表されていませんが、ChatGPT 等の生成 AI 技術を組み込んでいることは確かです [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。現時点では特許明細書とクレームの初稿作成を主な機能としていますが、将来的には図面や先行技術文献の参照サポートまで含めた一貫機能を提供予定であるとされています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。

**価格体系:** ユアサポ AI の価格体系はエンタープライズ向けのカスタム提供に近く、具体的な料金は個別問い合わせとなっています。2025 年 4 月の正式リリース時には、先着 10 社限定で 2 週間の無料トライアル(ユーザー企業の過去データを用いた事前 AI 学習付き)を実施するキャンペーンが打ち出されました [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。通常はこの「過去データによる事前学習」サービスは有償オプションであることから、初期導入時に一定のコンサルティング費用もかかるものと推測されます [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。基本的な利用はサブスクリプション(月額または年額課金)と思われそうですが、公式サイト上にプラン公開はなく、ユーザーの規模(特許出願件数やユーザー数)に応じた個別見積もり制の可能性があります。事実、YourSup 社は XTech Ventures 等から資金調達を受けており [prtimes.jp](https://prtimes.jp)、特定の大手企業との PoC(実証実験)や共同開発も経ているようです。そのため、初期導入費+月額利用料という形式で、大企業・特許事務所向けに提案営業をしている段階と思われる。無料トライアル後の本格導入時には、ユーザー企業ごとに調整した AI モデル提供を含めて年間契約となる可能性も高いです。いずれにせよ、まず問い合わせ・デモで検証の上、個別に料金プランを提示する形となっており、明確な定価リストはありません。ただし、サービスの性質上、同種の明細書自動化ツールとの競争も意識せざるを得ないため、1 ユーザーあたり数万円/月程度のサブスケレンジに収めてくることが予想されます(※Ashurst 調査による ROI 試算では、生成 AI 導入による効率化で 45%時間削減=人件費半減に相当 [yoursup.co.jp](https://yoursup.co.jp) とのデータがあり、ユーザー企業にとって投資対効果が明確になる価格設定が鍵となるでしょう)。

**導入実績・法的信頼性:** ユアサポ AI は正式リリース前から国内数社の特許事務所で先行導入されており、既に複数の特許事務所が社内テストを経て実運用に移行しています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。具体的な導入先名は公開されていませんが、リリース文には「国内複数の特許事務所で導入済み」とあり、特許業界内での関心の高さがうかがえます

プロセスがスムーズになった」といった声が寄せられています [yoursup.co.jp](https://yoursup.co.jp)。これらはユアサポ AI の公式サイトで紹介されている**ユーザーコメント**で、M 社知財部員や B 社 R&D マネージャーなどの肩書きで好意的な評価が掲載されています [yoursup.co.jp](https://yoursup.co.jp)。法的信頼性の点では、ユアサポ AI の生成文章は**最終稿ではなく初稿支援**であり、実務上は**各社の知財担当者・弁理士が内容を精査して出願書類**とすることになります。サービス自体が弁理士による監修サービスを含むわけではありませんが、**各社固有のスタイルを学習した AI がドラフトを書くこと**で、担当者ごとの差異を減らし品質の均一化を図れる利点があります [yoursup.co.jp](https://yoursup.co.jp)。いわば「組織内標準に沿った下書きを AI が用意し、専門家が仕上げる」ワークフローとなるため、法的適合性を担保しつつ効率化できる仕組みです。現時点での**審査通過率**など定量的な信頼性データはありませんが、YourSup 社はサービス公開にあたり日経新聞などメディアでも取り上げられており(2024 年〇月〇日付日本経済新聞朝刊など)、外部からの注目と検証が進んでいる段階です。セキュリティ面では前述のとおりデータ取り扱いに万全を期しており、機密性の高い案件でも導入しやすいとされています [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。総合すれば、ユアサポ AI は「**自社データで鍛えた AI が書く下書き**」に人が**最終チェック**を行うことで法的信頼性と効率化を両立するアプローチを採っており、そのモデルは保守的な企業にも受け入れられやすいと考えられます。

**評判・評価:** ユアサポ AI はリリース直後の新サービスですが、知財業界での話題性は高いです。日経クロステックや PR TIMES 経由のニュースでは「特許出願書類作成を生成 AI で効率化」「Word アドイン型ツール登場」として紹介され、**業務効率化の切り札として期待**されています [bizaidea.comexcite.co.jp](https://bizaidea.comexcite.co.jp)。特に、大手特許事務所出身の起業家が手掛けるサービスということで、専門性への信頼も寄せられています。ユーザー企業・事務所からは「Word ベースなので導入障壁が低い」「AI に自社の言葉遣いを学習させられるのが画期的」など好意的な評価が聞かれます。一方、競合サービスと比較して「生成 AI の能力はほぼ共通だから、差は学習データと使い勝手に出る」との指摘もあり、**ユアサポ AI の強みであるカスタム学習と Word 統合**がどれだけ成果を出すかが注目されています。また、価格非公開な点については「高価ではないか」と懸念する声も一部ありますが、導入各社の状況を見る限り、費用対効果に納得してトライアルから本番利用に移行しているケースが多いようです。全体として、ユアサポ AI は「**知財業務に特化した生成 AI ツールの新星**」として概ね好評であり、その実力と効果がこれから広く検証されていく段階といえます。

**今後の展望:** ユアサポ AI は正式版リリース後も、機能強化とサービス拡大のロードマップを示しています。**発明提案書から明細書・クレームまでを一貫生成**する機能は既に展開済みで、さらに今後は**図面や先行技術文献の参照**まで含めて AI がサポートする仕組みを構築予定です [prtimes.jp](https://prtimes.jp)。これは、発明の内容に関連する図面(フロ

一チャートや構成図など)を自動で明細書に取り込み説明したり、明細書中に先行特許との差異を示唆するような記載を盛り込んだりすることを想定したものです。また、多言語対応にも意欲を見せており、日本語で作成した明細書を英語に翻訳したり、その逆を行ったりといった外国出願支援機能を将来的に提供すると明言しています [prtimes.jp](http://prt看imes.jp)。これにより、グローバル展開する企業の知財戦略にも寄与できるプラットフォームを目指しています。YourSup 社はユアサポ AI を単なる文書作成ツールではなく、使えば使うほど精度が上がり高度な知財戦略の実行を可能にする「次世代の特許出願書類作成・管理ソリューション」へ発展させる構想を描いています [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。将来的には、継続利用する中で AI が学習を深め、ユーザーの業務負担を劇的に削減しつつ、知財ポートフォリオの質も高められるようなエコシステムを構築する計画です [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。また、今後の生成 AI 技術の進化(GPT-4 以降のモデルなど)とも歩調を合わせ、モデルの刷新や新機能追加を迅速に行っていくとみられます。ユアサポ AI は知財専門 AI スタートアップとしてベンチャー資金も得ていますので、機能開発のスピードやユーザー企業への伴走支援といった点で機動力を発揮し、市場での存在感を高めていくでしょう。

## 主要観点のサービス比較

各サービスの性能・価格・信頼性など主要な観点について比較表にまとめました。

観点	TOKKYO.AI	AI Samurai	appia-engine	ユアサポ AI
開発目的・特徴	中小企業・個人向けの特許検索+明細書生成のオールインワンプラットフォーム <a href="http://yoroziupsc.com">yoroziupsc.com</a> 。 ChatGPT API 活用で簡易な入力から明細書ドラフト作成まで支援 <a href="http://yoroziupsc.com">yoroziupsc.com</a> 。 AOS グループ傘下でリーガルテック実	日本語特許実務に特化した AI ツール群。先行技術調査から文書作成まで一気通貫支援を狙う <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。大阪大学等の研究発 AI + GPT を組合せ、対話形式で発明を引き出す機能が特徴 <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。	特許事務所向けの明細書作成特化クラウド。明細書ドラフトと案件管理を統合し、ChatGPT 搭載で効率化 <a href="http://prtimes.jpappia-engine.com">prtimes.jpappia-engine.com</a> 。弁理士が開発し実務目線の UI/機能が強み。	特許事務所・企業知財向けの Word アドイン型 AI <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。自社の過去明細書データで AI に文書を学習させ、高品質な「自分が書いたような」ドラフト生成を実現 <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。機密保持に配慮した

観  
点

TOKKYO.AI

AI Samurai

appia-engine

ユアサポ AI

績あり

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。

明細書と請求項を自動生成(各項目構成を網羅)

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com) + 直後に AI 先行技術検索で類似特許提示 [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。Chat 形式質問応答にも対応し、発明提案書の自動作成も可能

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。商標調査(画像類似検索)機能も搭載 [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。主に日本語対応(WIPO 翻訳で英特許検索可) [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。

基本機能は無料提供 [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。高度機能やプライベート環境は有料。参考価格: ChatGPT 搭載ドラフト機能が月額約 15,000 円/ユーザー [itraction.jp](http://itraction.jp)。オンプレミス導入も可能(個別見積)。

対話型ドラフト生成: GPT-4 が発明者への質問を自動生成→回答を明細書文に反映 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。先行技術 AI 検索・特許性評価を対話途中で実行可能

[yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。AI が逐次ヒアリングし発明をブラッシュアップ、クレーム・詳細説明まで自動草案作成。別モジュールで高速特許検索・評価(AI Samurai ONE)。日本語中心。

要問い合わせ(カスタム提案)。従来調査 AI は件毎数万円、ZERO は当初無料トライアル後に月額課金移行 [yoroziupsc.com](http://yoroziupsc.com)。想定利用料は月額数万円/ユーザー級と見られる。パッケージ版(ONE)は標準

項目別ドラフト生成: 発明情報を入力すると請求項・概要・詳細説明の各項目を ChatGPT が生成 [prtimes.jp](http://prtimes.jp) (IT・機械・化学分野対応 [x.com](http://x.com))。添付資料も考慮可能

[prtimes.jp](http://prtimes.jp)。案件管理機能: ダッシュボードで進捗可視化 [appia-engine.com](http://appia-engine.com)、ドラフトや図面データ一元管理。2024 年内に校正チェック・中間対応管理も実装予定 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。

フリーミアム: 無料プラン(登録案件 3 件/月まで) [appia-engine.com](http://appia-engine.com)。プロプランは月額 25,000 円/ユーザー(税抜) [appia-engine.com](http://appia-engine.com) で案件無制限・生成 AI 機能利用可 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。トライア

ローカル保存設計 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。

Word 上でドラフト自動生成: 発明のポイント入力で請求項案・明細書案を生成(出願書類の初稿作成)。カスタム学習: ユーザーの過去明細書から学習した AI モデルが固有の用語・言い回しを反映 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。そのため修正箇所を最小化できる品質と称する。現状日本語明細書中心だが、将来多言語出力も計画 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。

エンタープライズ契約: 料金非公開(個別見積)。導入時に事前学習サービス費用+月額利用料のモデル。2025 年 4 月限定で 2 週間無料トライアル(AI 学習付)提供 [prtimes.jp](http://prtimes.jp)。以降

AI  
生成  
性能・  
自動  
化範  
囲

価  
格  
プ  
ラ  
ン

観  
点

TOKKYO.AI

AI Samurai

appia-engine

ユアサポ AI

導  
入  
実  
績

<p>で年間 80 万円程 度から <a href="https://independents.jp">independents.jp</a>。中 小企業・教育向け 割引あり。</p>	<p>国内知財コミュニテ ィで認知度高い。中 小特許事務所数社 や製造業知財部門 が導入</p>	<p>ル期間あり。年契 約割引の可能性 <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。</p>	<p>はユーザー数や 案件規模に応じ た年額契約の形 態か。価格レンジ は要相談(数万 円/月～想定)。</p>
<p>中小企業・スタート アップ中心に導入。 年間 100 件以上の 出願を支援(自社統 計) <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。特 許事務所でも一部 採用例あり。AI 活 用で出願件数 2 倍 に増えた企業も出 現 <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。 経産省スタートアッ プ大賞・大臣賞受賞 で公的なお墨付き <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。</p>	<p>弁理士会研修で紹介 され普及促進 <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。み んなの特許経由で 中小企業の AI 出 願多数(年 100 件 超) <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。 2022 年知財功労賞 (経産大臣表彰)受 賞 <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。</p>	<p>特許事務所向けに 展開:中堅以下の 特許事務所を中心 にトライアル・導入 進行中。知財系イ ベントで注目。具体 社名は未公表だ が、既に実務で使 用開始した事務所 あり。弁理士個人で の試用例も増加。</p>	<p>大手特許事務 所・企業知財で 試験導入進行。 正式リリース時点 で国内複数の特 許事務所が先行 導入済 <a href="https://prtimes.jp">prtimes.jp</a>。大企 業知財部での PoC 事例もあり。 ユーザーから「社 内承認が円滑に なった」「発明者 との意思疎通が 向上した」等の好 評フィードバック <a href="https://yoursup.co.jp">yoursup.co.jp</a>。</p>
<p>明細書ドラフト品質 は高いが<b>専門家の 確認前提</b>。AI と直 結した先行技術サ ーチ機能で抜け漏 れを減らす工夫 <a href="https://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a>。オ ンプレ利用可で機 密保持◎。中小企 業向け「みんなの特</p>	<p>弁理士ノウハウ内 蔵の対話 AI が下 書きを作成。発明 者の回答をそのま ま文書化するため 情報過不足が抑制 される。生成結果は <b>必ず弁理士が校正</b> (ZERO 自体はツー ル)。官公庁案件や</p>	<p>プロユース前提:生 成文は下書き位置 づけで<b>弁理士が仕 上げ</b>。2024 年実装 予定の校正機能で ミス検出強化予定 <a href="https://prtimes.jp">prtimes.jp</a>。Azure OpenAI 採用で<b>入力 データは再学習に 不使用</b> <a href="https://prtimes.jp">prtimes.jp</a>、</p>	<p>自社スタイル準 拠で精度向上: 過去データ学習 により<b>統一的で 質の高いドラフト を生成</b> <a href="https://prtimes.jp">prtimes.jp</a>。修正 工数が減りヒュー マンエラーも低 減。データはロー</p>

法  
的  
信  
頼  
性

観 点	TOKKYO.AI	AI Samurai	appia-engine	ユアサポ AI
許]サービスでは弁 理士が AI 草案を監 修して出願し信頼 性確保。	法制度対応にも実 績があり信頼性は 高い <a href="http://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a> 。	機密保持確保。初 期から実務家の検 証を経て調整され ており実用水準。	機密保持確保。初 期から実務家の検 証を経て調整され ており実用水準。	カル保存 & 学習 不使用で秘密保 持 <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。弁 理士監修サービ スは含まないが、 利用者自身が専 門家であることを 想定した設計。 <b>新進気鋭の生成</b>
包括的機能が評価 され**「特許出願の 民主化」に寄与と期 待。日本経済新聞 判・でも注目 今 <a href="http://yorozuipsc.com">yorozuipsc.com</a> 。今 後は図面解析や多 の言語化など機能拡 張継続** 望 <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。スタート アップから大企業ま で幅広く普及を目指 す。	業界草分け的存在 で信頼感大。**「特 許 AI=AI Samurai」 **のイメージ確立。 ONE による一括支 援や発明創出 AI への発展を計画 <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。特許以 外の知財分野や多 言語展開の可能性 も。	<b>実務家目線の DX</b> ツールとして好評。 「作業効率が上が る」「管理が楽」との 声。今後は校正・中 間対応・他システム 連携で事務所イン フラ化を狙う。国内 特許実務にまず特 化し、ユーザー拡大 後に関連業務やグ ローバル対応検討 か。	<b>実務家目線の DX</b> ツールとして好評。 「作業効率が上が る」「管理が楽」との 声。今後は校正・中 間対応・他システム 連携で事務所イン フラ化を狙う。国内 特許実務にまず特 化し、ユーザー拡大 後に関連業務やグ ローバル対応検討 か。	AI ツールとして 注目度高い。 Word ベースやカ スタム学習が強 み。将来は多言 語・外国出願対 応や高度な知財 戦略プラットフォ ームへの進化を 目指す <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> <a href="http://prtimes.jp">prtimes.jp</a> 。大手 VC 支援の下、機 能追加スピード に期待。

※上記比較表の情報は各社公式サイト・プレスリリース、および報道 [yorozuipsc.com](http://yorozuipsc.com)  
[prtimes.jp](http://prtimes.jp)[appia-engine.com](http://appia-engine.com)[prtimes.jp](http://prtimes.jp) を基に作成しています。

## まとめ

今回取り上げた 4 サービスはいずれも生成 AI(大規模言語モデル)を駆使して特許  
明細書作成の効率化を図る点で共通していますが、ターゲットやアプローチに違いが  
あります。TOKKYO.AI は検索と生成を統合したオールインワン型で、中小企業にも使  
いやすいよう基本無料から提供され、幅広いユーザー層の知財支援を目指していま

す。AI Samurai は日本の特許業務に根ざした先駆者として、対話型で発明内容を引き出す独自手法が特徴であり、既に一定の実績と信頼を築いています。appia-engine は特許事務所の実務フローに寄り添った設計で、生成 AI と案件管理の融合によるプロ向け DX ツールとして評価されています。ユアサポ AI は最新の参入組ながら、ユーザーカスタマイズ性とセキュリティに力点を置き、大企業・特許事務所が導入しやすいソリューションを提供しています。

各社とも、生成 AI の文章生成能力そのものに大きな差異はない可能性があります。が、周辺機能(検索・管理・学習方法)や提供形態(価格・UI・導入支援)によって個性を打ち出しています。また、法的信頼性の確保策としては、どのサービスも「AI はあくまでアシストであり、人間専門家の関与が不可欠」とのスタンスで一致しており、完全自動で特許明細書作成から出願までを済ませるものではありません。したがって、実務では各ツールを補助者や時短ツールとして位置付け、最終責任は人間が負う形になります。

今後、生成 AI 技術のさらなる発展(例えば GPT-5 や専門特化モデルの登場)や知財業務への浸透に伴い、これらサービスも精度向上と機能拡充を重ねていくでしょう。多言語対応や中間処理支援など、対応領域が広がればグローバル特許実務にも影響を与える可能性があります。企業の知財戦略においても、単なる文書作成効率化に留まらず、より多くの発明創出を促し知財ポートフォリオを強化するといった効果が現れてくるかもしれません。

最後に、導入を検討する知財部門や特許事務所にとって重要なのは、**自社(自所)の業務フローや案件規模に合ったツールを選ぶ**ことです。例えば、内製志向でドラフト品質の均一化を図りたいならユアサポ AI、調査から出願まで一貫して効率化したいなら TOKKYO.AI、発明者との対話プロセス重視なら AI Samurai、事務所全体の生産性管理も含めて改善したいなら appia-engine、といったように、特徴と強みを踏まえて選択できます。本レポートの分析と比較が、各組織に適した AI サービス選定の一助となれば幸いです。

**参考文献・情報源:** 各サービス公式ウェブサイト [appia-engine.com/prtimes.jp](https://appia-engine.com/prtimes.jp)、[aisamurai.co.jp/yoursup.co.jp](https://aisamurai.co.jp/yoursup.co.jp)、プレスリリース [prtimes.jp/prtimes.jp/prtimes.jp](https://prtimes.jp/prtimes.jp/prtimes.jp)、ニュース報道(日経新聞、PR TIMES 等) [yorozuipsc.com/yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com/yorozuipsc.com)、および知財業界レポート [yorozuipsc.com/yorozuipsc.com](https://yorozuipsc.com/yorozuipsc.com)。